

祝 2019 新成人 はたちの抱負



揮毫 伊藤茂男氏
 鎌田地区
 平成 31 年 1 月 1 日現在
 世帯数 8,969 戸
 男女 9,986 人
 9,581 人
 発行 鎌田地区公民館
 公民館編集委員会



佐藤 琢郎
井川城中区

私は、平成最後となる今年、成人式を迎えます。

18歳で高校を卒業し、人の役に立てる仕事に就きたいとの思いを抱き、警察官の道を選んでからすでに約2年の月日が



小林 知弘
弥生町

成人式を迎えるにあたり、今までの自分を振り返ってみました。高校卒業後、担任の先生と両親の強い勧めで短大の看護科に進学しました。

学校が始まると学習面で行き詰まり、実習

経とうとしています。

就職した当初は、初めての仕事や社会人としてのマナーの難しさに直面し、毎日が分からないことだらけで、日々辛く大変な思いを抱えています。

しかし、周囲の方々の温かな助けを借り、最近やっと少し仕事に慣れてきました。とは言えまだまだ未熟で、一日

で看護の現場の厳しさを目の当たりにし、一年で退学を選択しました。これ以上親に高額な学費を支払ってもらっても看護師になる自信がなかったからです。両親からは「自分で決めたことなら自分の思うようにしなさい。二人ともあなたを応援している」と、私を責める言葉は一切ありませんでした。その後就職活動をし、

でも早く一人前になれるよう勉強の毎日です。

今でも大学に進んだ友人たちを見てみると、大学生活に多少の未練を感じることはありますが、取り組んだ仕事の成果が出てやりがいを感じる時、2年前に私が選んだ道は間違っていないかと思えます。

そして成人となったことで、より一層社会人としての責任を自覚しつつ、与えられた役割を果たすことで社会に貢献できるよう、これからも精進していこうと思います。

今の会社に入りました。社会人として責任の重さを実感しています。新しい仕事を覚えるのは日々勉強です。上司や先輩は、こんな未熟な私を温かく時には厳しく指導してください。今まで私に関わってくださった全ての人と両親に感謝の気持ちをお忘れず、自分の行動に責任を持てる社会人になりたいと思います。

松本の
伝統工芸
講座

干支の押絵をつくる



押絵で今年の干支「亥」の壁飾りをつくる講座を、鎌田地区公民館の主催で昨年12月20日に初めて開催しました。

まず、講師の三村隆彦さん(ベラミ人形店)から、明治期の七夕人形と押絵雛を見ながら、松本の伝統工芸について学びました。



押絵雛の歴史を学ぶ



手順を教わりながら各パーツを作成

明治中期には松本の一大特産品として各地で売られていた人気商品でした。生産量を上げるための粗製濫造や鉄道の開通により東京方面から座雛が流通したことで大正期には途絶えてしまいましたが、昭和40年代に講師のご両親が中心となって押絵雛の製作技法が復活され、今日では再び節句で飾ったり、松本の土産品としても人気があります。作品は、金の笄を挿る2匹の瓜坊の図柄。26ものパーツ毎に型紙と薄綿を布で包み、小さな色紙に貼っていきます。参加者全員が押絵は初めてで「細かい作業が大変だったが、ふっくらと可愛らしい」とご満悦でした。作った人は今年金運に恵まれるそうです。

防災講座

糸魚川市駅北大火に学ぶ

平成28年12月に発生した「糸魚川市駅北大火」の状況や復興への取り組みについて学び災害に備えようとの目的で現地を視察する講座が、鎌田地区町内公民館長会の主催で昨年11月12日に開催され、地域住民も含め29名が参加しました。

におよびました。

糸魚川市と消防署の職員から火災時の消火状況の概要や復興5カ年計画の概要説明を受け、火災現場を回りました。災害に強いまちづくりを目指し、延焼を遮断するための

道路拡幅、消火設備を備えた防災公園の整備、消火栓の地上設置など復旧が着実に進んでいると感じられました。

参加者からの質問も多くあり、関心の高さが伺えました。「火を扱う時はその場を離れない」「コンロの近くには燃えやすいものを置かない」ことなどを再認識した講座となりました。



住宅が建設されるなど復興が進む現場を歩く

鎌田地区の歴史や地理に詳しい講師の小山淳一さんのていねいな説明は分かりやすく、地元に住んでいながら見落としていたものや初めて知ることも多く、「膝打ち、腑に落ち、目から鱗」の連続でした。大切な地元の歴史や文化など、

鎌田お宝講座

第3回

「鎌田地区を知ろう」 両島・征矢野・鎌田界隈の旧道を歩く

昨年11月29日、鎌田地区公民館文化委員会の主催で開催しました。

まず公民館で映像を見ながら予習をした後、徒歩で現地へ向かいました。両島の足半草履や征矢野の道祖神・馬頭観音、鎌田の北向観音堂、井川城の井川城跡などを巡り、最後に鎌田周辺の段差地形を確認しました。

まさに「お宝」が変革の波に飲み込まれ、忘れ去られ失われてしまうことのないよう語り継ぎ守っていくことの大切さを痛感しました。

ほどよい距離を歩きながら



両島の足半草履

鎌田地区公民館に新たな専門委員会を設置

昨年12月に運営委員会(11名)とスポーツ委員会(8名)が結成されました。従来からある編集・文化・図書視聴覚の3つの委員会に加えて、今後は5つの専門委員会が互いに連携しながら鎌田地区公民館の事業を支援していきます。



両島川端の馬頭観音像

井川城跡

の学習は、体と頭の健康にもほどよい効果のあったひと時でした。

雑感

多くの皆さんが魅せられ、一度は育てて見たいと思う花にバラがあります。和名の「ばら」はとげのある「いばら」の略称といわれています。赤色は愛情、白色は深い尊敬、ピンク色はしとやか、黄色は友情など、色別の花言葉も多くあります▼この素敵な花を育てようと、数年前に3株植えました。花は咲きましたが、葉っぱが黒くなり、あつという間に落葉し惨めな姿となりました。書物を購入して栽培方法などを調べたら、バラの成長を妨げる黒星病には適切な消毒が不可欠と書かれていました▼ある日、葉っぱに青い虫がびっしりと張り付き、葉脈だけになっていて、バラ特有の「チュウレンジハバチ」という害虫でした。この他にも、色々な病気があり害虫がいます。きれいな花が咲くためには、冬の剪定作業も重要です▼現在我が家に35株のバラが植えてあります。病気もなく5月にはきれいに咲くように、日々手入れに努力しつつ、将来は皆さんに見学してもらえそうなバラ園にしたいと思っています。

(松本捷幸)